

「次代へ繋ぐ新たな柑橘経営を」

石田 英久 (33 歳) Uターン
(砥部町)



1 就農の動機・理由

代々柑橘農家であったため、自分もいずれは就農するつもりでいたので、農業するのに必要な知識を得るために就職先も選定し知識や経験を積んだ。

6 年間農産物の動向や物流・販売等の知識を学ぶなか、親からの声もあり、今度は親と一緒に農業していくなかで生産技術を得るのにちょうどよい時期であると考え、就農を決意した。

2 農業経営の概要

○経営の展開

項目	就農時の経営 (平成 26 年)	現在の経営 (令和 4 年)	将来の経営 (令和 7 年)
労働力	男 3 人 (本人他) 女 2 人	男 3 人 (本人他) 女 2 人	男 3 人 (本人他) 女 2 人
経営耕地	樹園地 174a	樹園地 173a	樹園地 167a
経営内容	温室みかん 31a 愛媛果試第 28 号 15a 施設せとか 8a 柑橘 85a キイチフルーツ 35a	温室みかん 31a 愛媛果試第 28 号 22a 施設せとか 8a 柑橘 81a キイチフルーツ 31a	温室みかん 24a 愛媛果試第 28 号 22a 施設せとか 15a 柑橘 81a キイチフルーツ 25a

○農業用施設

農業用倉庫 3 棟 240 m²
A P ハウス 9 棟 6,100 m²

○主要農業機械

軽トラック 2 台
動力噴霧器 2 台
点滴灌水装置 2 台
運搬車 1 台

3 あしあと

(1) 就農までの主な経歴

出身地 愛媛県砥部町
職歴 大阪中央青果
就農研修歴

愛媛県立農業大学校

(H19. 4. 1～H21. 3. 31)

就農年月 平成 26 年 4 月

(2) 就農時の思い

代々続いていた経営をいずれは自分が継ぐというプレッシャーはあった。

父親の代で施設せとかや愛媛果試第 28 号など導入し年間を通して収穫・出荷できる栽培体系を確立していたので、今後は自分が経営主となる時に、品種構成の見直しや経営規模の維持・拡大等を判断するための情報収集に努めている。

4 就農時の取り組み

(1) 技術の習得

栽培技術については農大がベースにあるが、本当の技術については親と一緒に作業したり農協等の講習会などで身につけた。

(2) 資金の準備

特に準備する必要はなかった。

(3) 農地・住宅の確保

親元就農のため独自で農地等を確保してはいない。基本作業は家族で一緒に行い親を見ながら様々な栽培技術を身につけた。新品種導入についても一緒に育成に取り組むことで技術や情報など共有でき、経営内容についても一緒に話し合うなどできている。

結婚し、同じ敷地内に新居を建てており、妻は子育てに専念中である。

(4) その他苦労したこと

自分の就農時においては、環境も整っていたことから特に苦労するようなことはなかったが、やはり近いうちに「経営移譲」が現実として近づいてきた感があり、本当の苦労はこれからという感がある。

5 農業経営の特徴

温室みかんや施設せとか等の施設柑橘と露地柑橘を組み合わせることで収穫販売期間がほぼ周年となるような品目構成となっている。近年の重油高騰などもあり、温室みかん栽培を継続するか新たな品種に更新していくか検討しているところである。

今後は法人化も視野に入れた経営を考えているが、法人化も様々な形態があるため今のうちに勉強しながら自己の経営にあった形態を見つきたい。

6 これからの夢

今までは基本的に親の技術や経営を学び、それを模倣することを繰り返してきたが、今後は何か一つでも人がやっていないことを見つけて経営に取り入れていきたいと考えている。

7 成功したキーポイント

就農時には、生産組織や地域の青年組織にも所属し、同世代の生産者と組織活動をとおしてお互い技術を磨いてきた。会員間の繋がりを深め、何かあった時に相談し助け合うことができることは大切な財産だと思う。これからも地域の人とのつながりは大切にしていきたい。

8 就農を目指す方へのアドバイス

砥部町の青年農業者組織では、会員相互のつながりを大切にしており、新規就農者が早期に経営を安定させるために労力がかかるような作業を協力して支援する「お手伝い事業」活動を実施していますので、砥部町で就農を考えている人は、ぜひ組織に入り、一緒にやりましょう！

○ 指導機関からのひとこと

砥部町青年農業者協議会の会長として積極的に企画立案し、組織活動や新規就農者の定着支援、地域農業の活性化に取り組み、地域の担い手として頼もしい存在です。これからも地域のリーダーとしての活躍を期待します。

執筆機関

中予地方局農業振興課地域農業育成室
伊予農業指導班

電話番号 089-982-0477



キウイフルーツのせん作業